



## 研究テーマ

- 1 漁業・水産業に関する地理学研究
- 2 移動就業行動に関する地理学研究
- 3 伝統的飲食に関する文化地理学



## 中村 周作

なかむら しゅうさく  
教育学部  
社会科教育  
(地理)講座

教授

## キーワード

魚, 漁業, 水産業, 水産物行商, 移動就業者, 屋台営業者, 縁日市露店商, 食文化, 魚介類食, 飲酒嗜好, 地域色の文化地理学, 地理教育, 日本, 宮崎県

特許情報・  
共同研究・  
応用分野など

酒と魚に関する公開講座などを担当  
科研「黒潮の道」(関西大学野間晴雄代表)にて和歌山, 高知, 伊豆, 八丈島などを研究。  
科研「原初的流通形態としての水産物行商に関する地理学的研究」。  
科研「伝統的飲食文化の展開とそれらを核とする地域振興に関する研究」。

## 研究概要

研究内容は、魚を捕る(漁業), 育てる(養殖業), 流通・販売する(伝統的な形態としての水産物行商), 食べる(地域飲食文化)に関する地理学研究です。いろんなことをやっていますが、キーワードは魚, および酒菜つながりでお酒の研究(地域的な飲酒嗜好)にも取り組んでいます。最近の研究は、地域の特色(エリアカラー)の文化地理学研究です。地域の課題に関する実態を調査した上で、その解決を考えるのが地理学に課せられた命題ですので、特にローカルな地域が抱える課題の解決を目的に研究を進めています。

## 1 漁業・水産業に関する地理学研究

漁船が、漁港から出漁し、漁場でどのような操業行動をし、漁港へ帰るのか、漁業者の操業に関わる空間行動とその行動の持つ意味について考えています。これまで、日南市南郷町目井津のカツオ、マグロ船、延岡市島野浦のまき網船などについて研究してきました。

## 2 移動就業行動に関する地理学研究

昔、魚の流通を担ってきた水産物行商人がどこに住んで、どこで魚を仕入れ、どこで販売するのか、その空間行動を解明してきました。また、1980年代半ばの時点で、全国にどれくらいの水産物行商人がいて、どういった場所でおもに活動しているのか、これが2000年代になると、どのような変化を見せたのかについて、各都道府県食品衛生部署資料などをもとにデータを集め、全国各地を回って行商人に話を聞いて回っています。本研究の成果は、私の学位論文をまとめ直した『行商研究』(海青社)として世に出しています。本書は、近年日本では行商人が全国的にほとんどいなくなっていますので、貴重な産業遺産資料と言えるかもしれません。

## 3 伝統的飲食に関する文化地理学

地域の伝統的な魚介類食がどのように展開しているのかについて、全国的に調査を行っています。合わせて、地域で好まれてきた酒の嗜好についても研究しています。魚は「うお」であり、酒のあて(酒菜)だったので、「うお」が「さかな」に転化しました。この両者は、切っても切れない関係として一緒に研究をしています。『宮崎だれやみ論』(鉱脈社, 2009), 『熊本 酒と肴の文化地理』(熊本出版文化会館, 2012), 『酒と肴の文化地理 大分』(原書房, 2014), 『佐賀 酒と魚の文化地理』(海青社, 2018)と研究成果を世に出しています。次は、『日本 酒と魚の文化地理』を出版することが目標です。

## ホームページ

## 技術相談に応じられる関連分野

## メッセージ

地理学の楽しさ, 学ぶことの喜びを伝えることのできる授業, 教員養成を目指しています。